

KDLスタッフが選ぶ！ 今月のおすすめ資料

2025 September

9月23日は「手話言語の国際デー」、そして9月最後の週は「国際ろう者週間」です。

聴覚障害者にとって手話は、単なる支援手段ではなく、豊かな言語であり文化です。障害学では、**障害は個人の「欠陥」ではなく、社会の側が作り出す障壁や排除の構造によって生まれるもの**と考えます。この視点から、手話やろう文化、そして障害をめぐる社会の構造そのものについて考えるための資料をご紹介します。

「ふつう」とされてきた社会のあり方を問い直すきっかけとして、ぜひ手に取ってみてください。



V-16



D-9



D-26



D-38

CODA（Children of Deaf Adults）とは、「聞こえない親を持つ聞こえる子供たち」のこと。かれらは、聴文化とろう文化という、異なる二つの文化を行き来しながら育ちます。一見特殊に思えるその経験は、親子関係や自分語りの話として、多くの人に通じるものがあります。こちらの書籍と映画を通して、そんなコーダの世界をのぞいてみませんか。

「手話を言語」と言うのなら、ここの言語とはどのような意味を持つかが存じですか。手話を言語とする条例や法律を盛り込む上での問題について、実例とともに、人権保障論や教育現場、保護者の立場から考え、手話言語条例/法の現状を学んでみてはいかがでしょうか。

聴覚障害者の日常や世界に対して健聴者が抱く素朴な疑問を分かりやすく説明した本です。この本をきっかけに、聴覚障害者との関わり方を見直し、聴覚障害者と健聴者の間で「福祉」や「支援」という枠組みを超えた豊かな関係を作っていきませんか。



D-10



D-20



D-71

「クレオール」という言葉をご存知ですか？それは、共通言語を持たない人が接触した際に新しい言葉が生まれ、やがて独立した言語に編成されていく現象のことです。人と人が意思疎通を図りあうことで生まれるクレオール。そんな言葉に、「たったひとりのクレオール」というタイトルはどこか矛盾を感じさせます。本書では、筆者が抱くその矛盾を手がかりに、聴覚障害児教育について考えていきます。

皆さん手話を世界共通の言語と思っていませんか？実は国や文化によって異なります。また、同じ日本語の言葉でも手話が複数あったりとその多様性が魅力です。また、「サウナ」や「ハローワーク」なども表現でき、皆さんが思っているよりも語彙が豊富な点も魅力です。あなたの思い浮かべた単語手話でどうやって表すかぜひこの本で調べてみてください!!

「ろう者学」と「女性学」を取り入れた、ろう者の女性が「障害を持っていること」と「女性であること」によって受けやすい複合的な差別について分かりやすく説明した本です。マジョリティの世界に埋もれた社会的マイノリティの立場に目を向け、かれらが生きやすいと感じる世界に変えていきましょう。

